

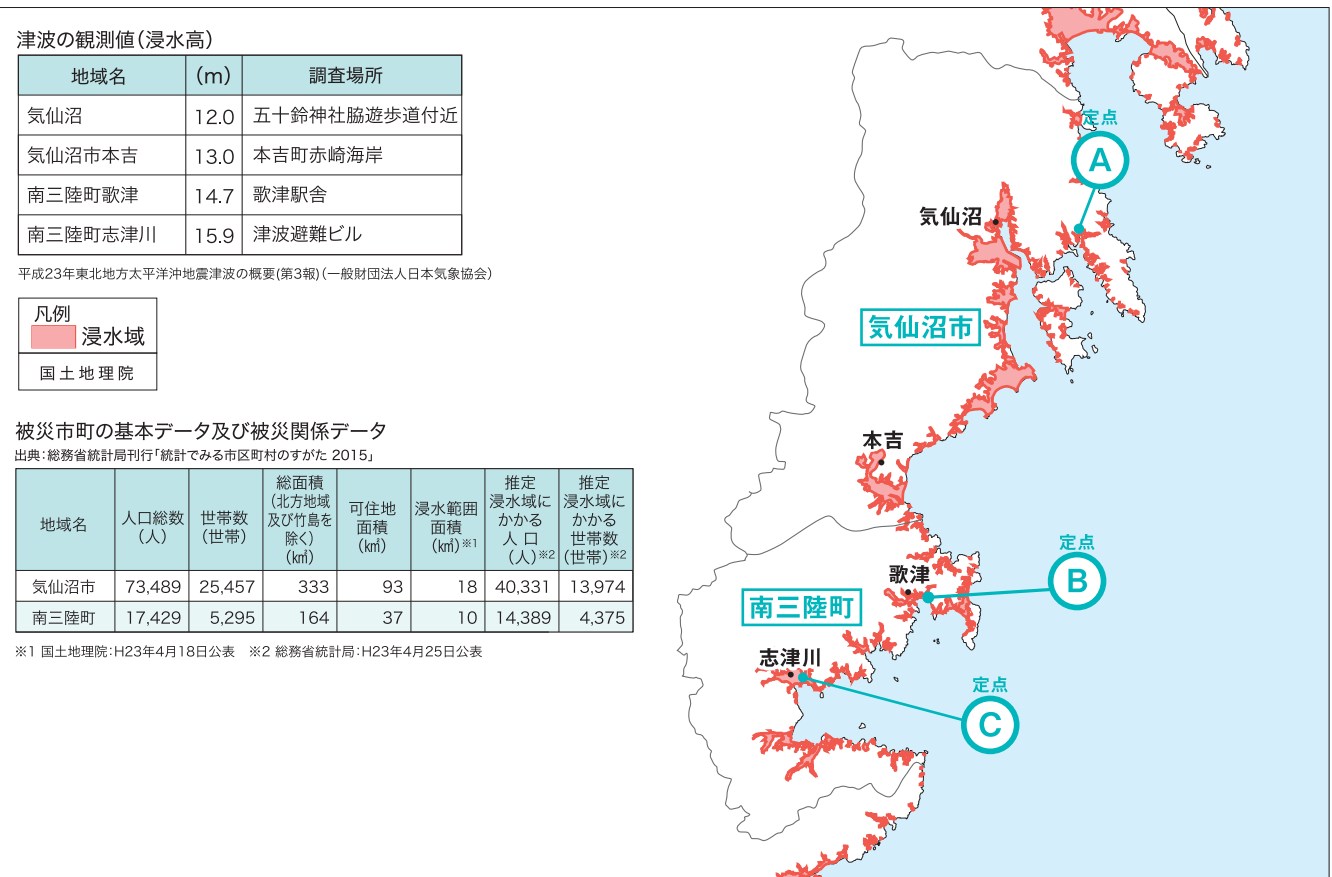
気仙沼・本吉エリア(気仙沼市・南三陸町)

漁業が基幹産業となっているこのエリアでは、震災により大津波が押し寄せ、甚大な被害が発生しました。平成26・27年度には、^{ししおり}鹿折地区や戸倉地区等の防災集団移転促進事業や災害公営住宅の整備が進みました。また、平成25年に着工した大島架橋事業や地域の物流を担う三陸沿岸道路の整備が進

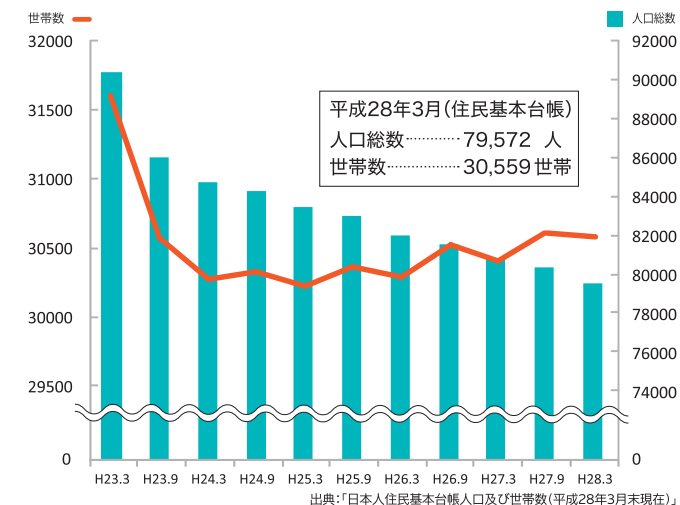
められ、復興の推進力となっています。

気仙沼市では、気仙沼市魚市場の整備や「海の市」再建、漁業用施設災害復旧事業等、漁業施設の復旧が進みました。また、応急仮^{はじかみ}設住宅での高齢者見守り事業や、波路上保育所の整備等、暮らしやすいまちづくりが行われています。

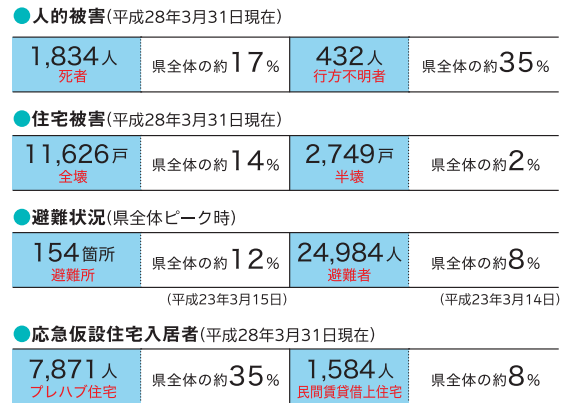
南三陸町では、南三陸町地方卸売市場や、町の水産業を支えるシロザケの稚魚生産を行う小森ふ化場が完成しました。また、津波で壊滅した志津川病院が「南三陸病院・総合ケアセンター南三陸」として再建し、南三陸地域子育て支援センターや戸倉地区・歌津地区の子育て拠点施設が設置されました。



気仙沼・本吉エリアの人口・世帯数の推移



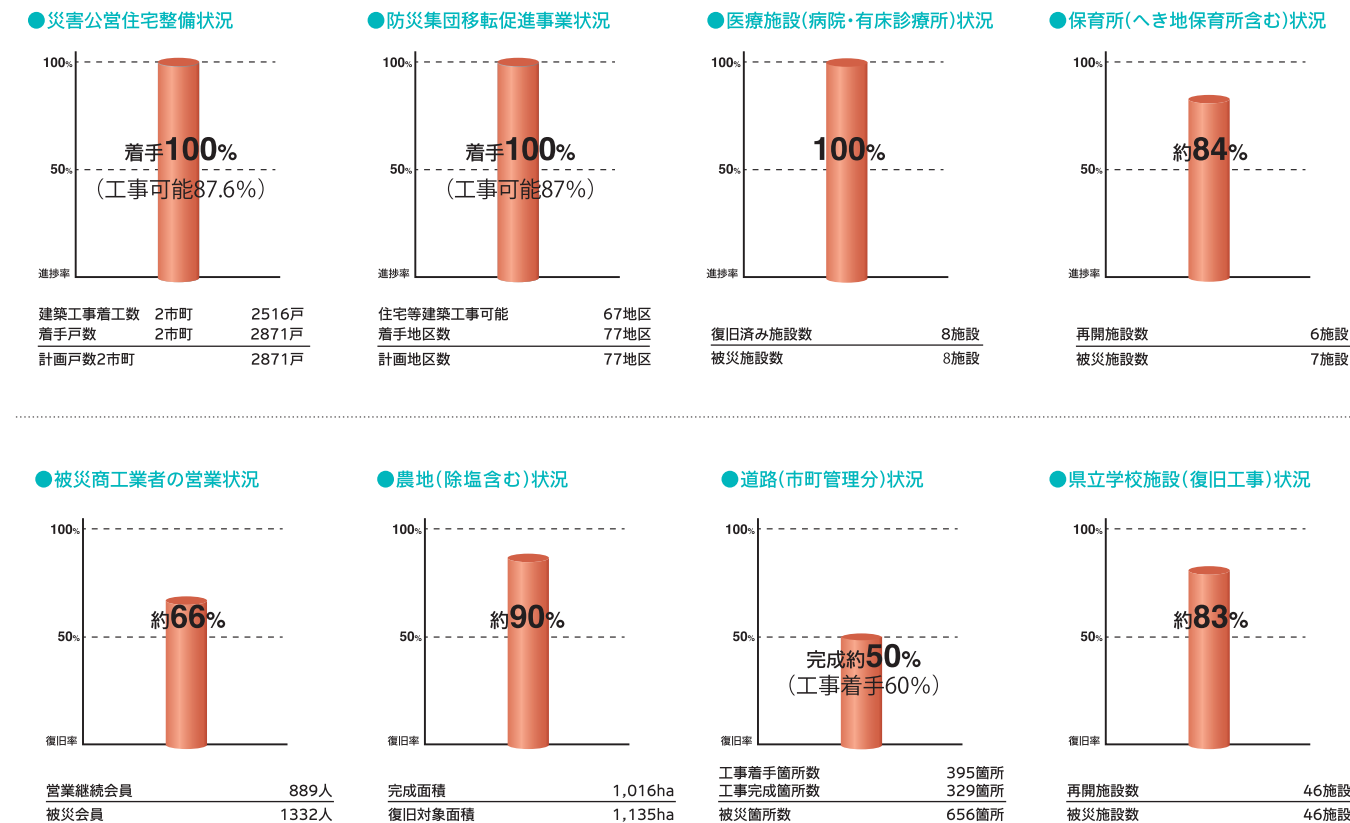
被災の状況



復旧・復興状況(定点観測)



復興の進捗状況(平成28年3月現在)



石巻エリア(石巻市・東松島市・女川町)

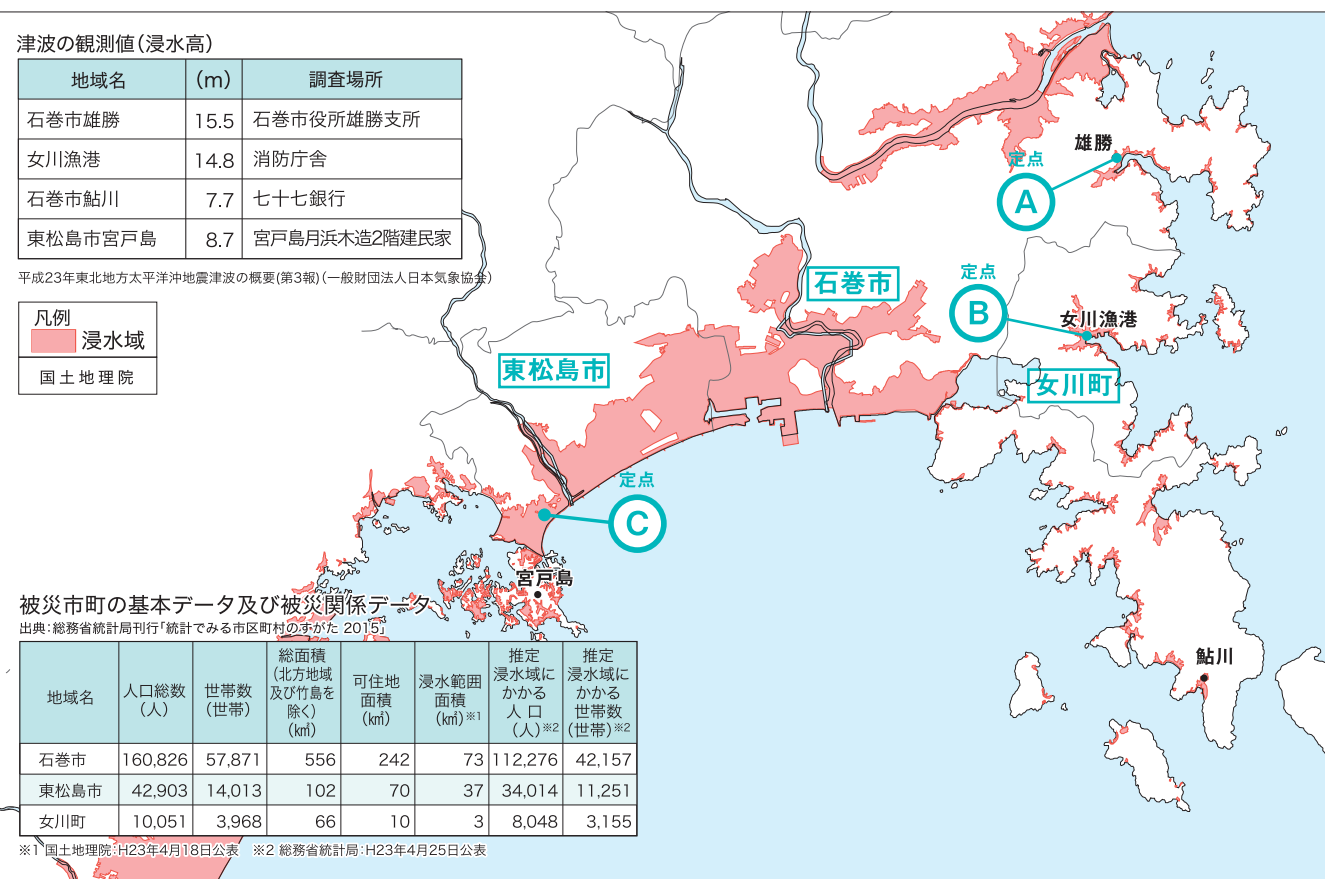
平成26・27年度ではインフラ整備が進み、平成27年はJR石巻線とJR仙石線が全線運行を再開、仙石東北ラインも開業しました。また、通行止めとなっていた県道牡鹿半島公園線が開通、県管理道路の全ての通行止めが解除されました。

石巻市では、土地区画整理事業や災害公

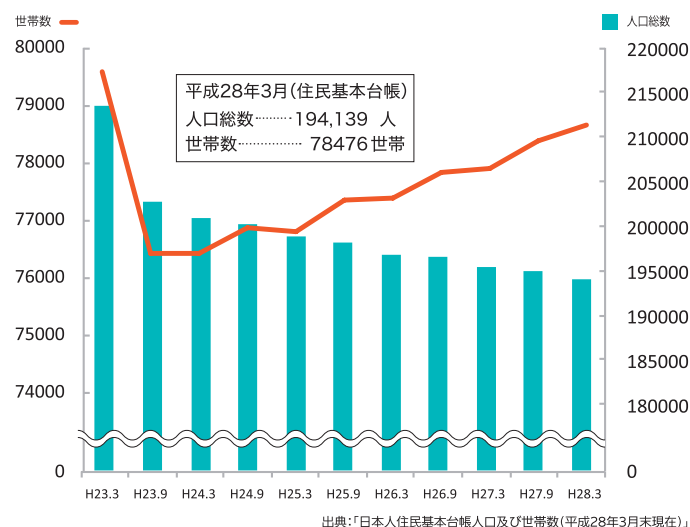
営住宅の整備をはじめ、石巻市水産物地方卸売市場石巻売場が全棟完成、津波避難タワーの整備等、復興が進んでいます。また、石巻市立の2つの高校が統合され、石巻市立桜坂高等学校が開校しました。東松島市では、「森の学校プロジェクト」が進められ、その一貫として「うまのひづめ展望デッキ」が

完成しました。女川町では、女川町地方卸売市場東荷捌場が建設されたほか、新しい女川駅前商業エリアのまちびらきも行われました。

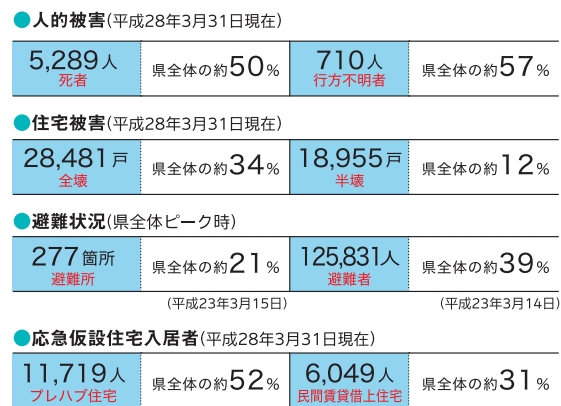
震災の記憶を後世に残すため、門脇小学校や旧野蒜駅等、震災遺構としての保存について議論が進みました。



石巻エリアの人口・世帯数の推移



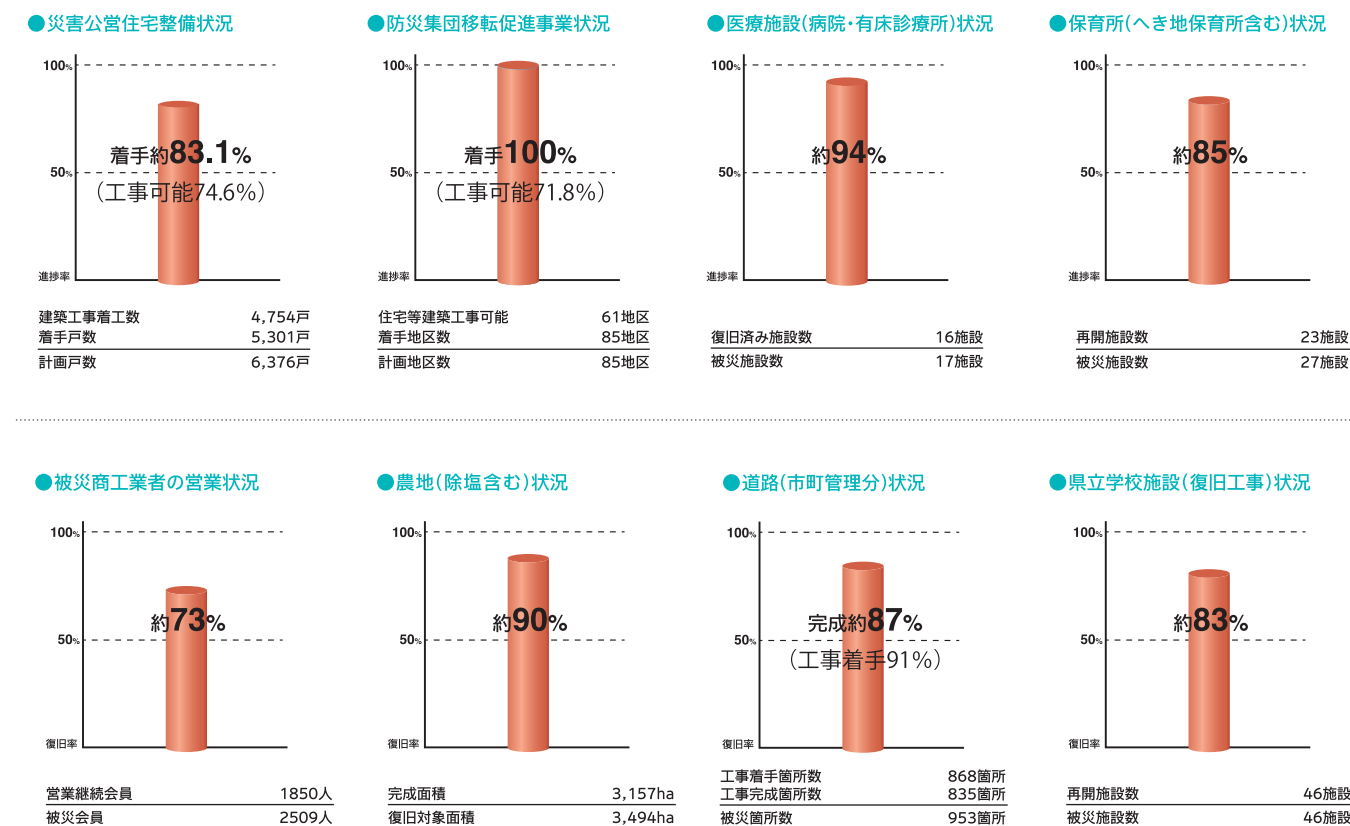
被災の状況



復旧・復興状況(定点観測)



復興の進捗状況(平成28年3月現在)



エリア別 03

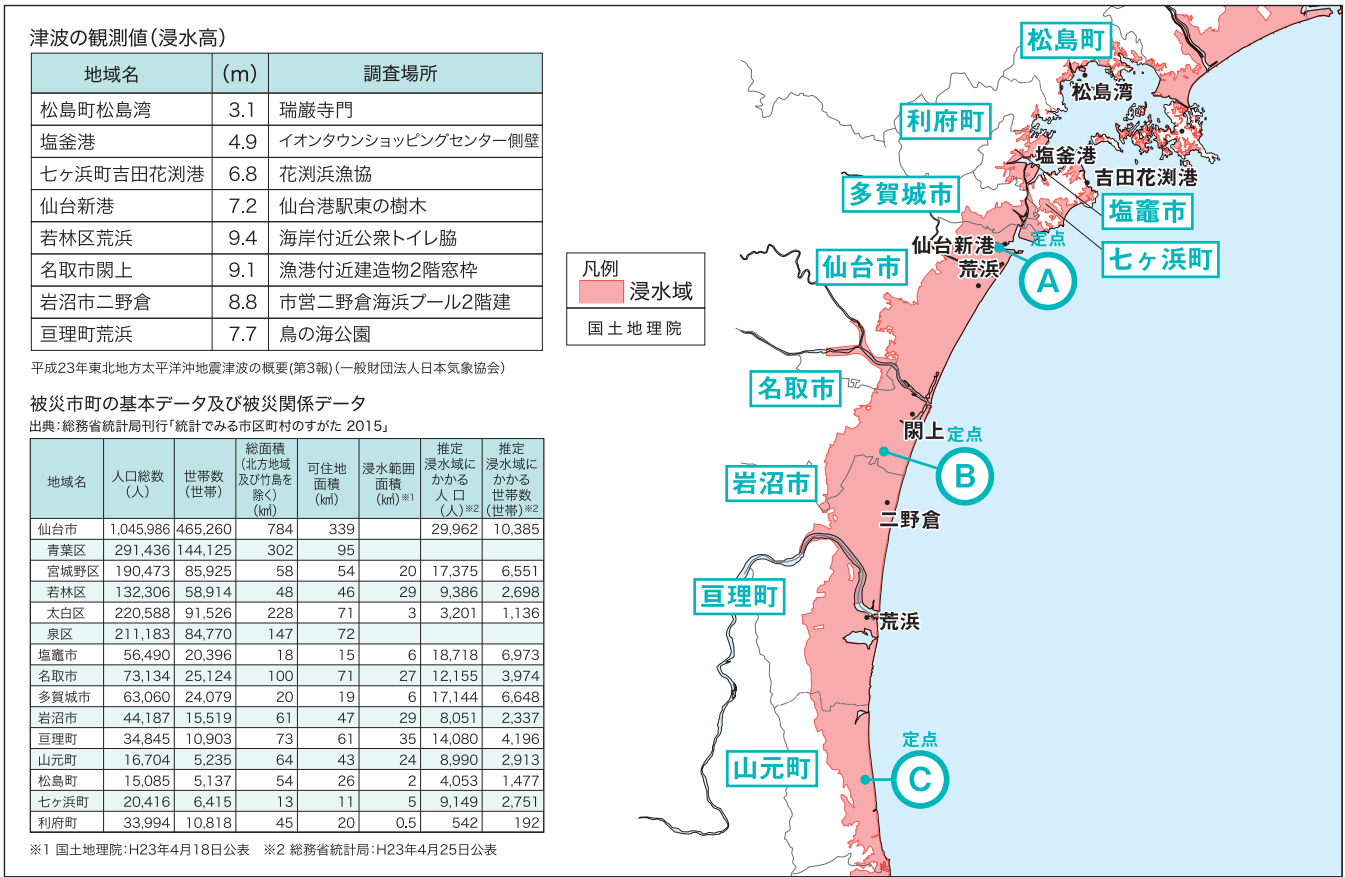
仙台沿岸エリア(仙台市・塩竈市・名取市・多賀城市・岩沼市
亘理町・山元町・松島町・七ヶ浜町・利府町)

仙台沿岸エリアでは、仙台市で、東日本大震災で最多となる全半壊住家被害が出たほか、沿岸部を襲った津波による農地冠水や農作物の流出も甚大でした。

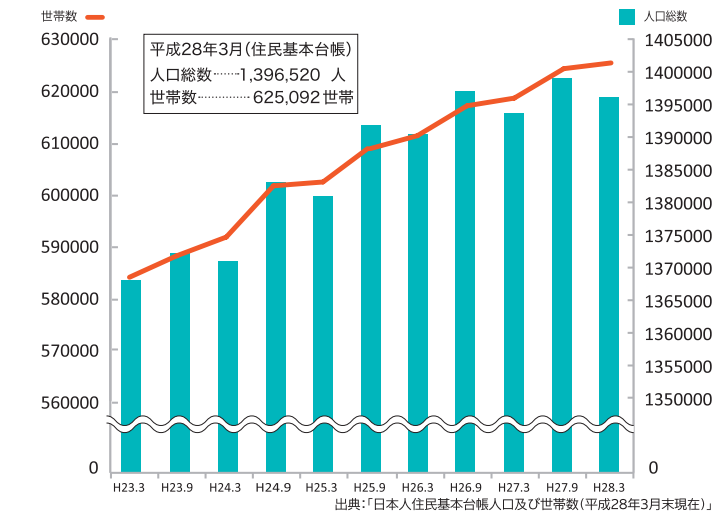
平成26年12月に相馬－山元ICが開通し、鳥の海PAが開設され、平成27年3月には首都圏と宮城を結ぶ常磐自動車道が全線開通するな

ど、交通インフラの整備により復興が加速しました。また、沿岸部の復旧が進み、塩竈市をはじめとした市町の漁港整備、名取市の関上地区で定地かさ上げなどの整備が始まり、岩沼市の千年希望の丘の整備等が行われました。仙台湾南部海岸堤防では、復旧が進められ、平成28年度末までの完成率は約9割となる見込みです。

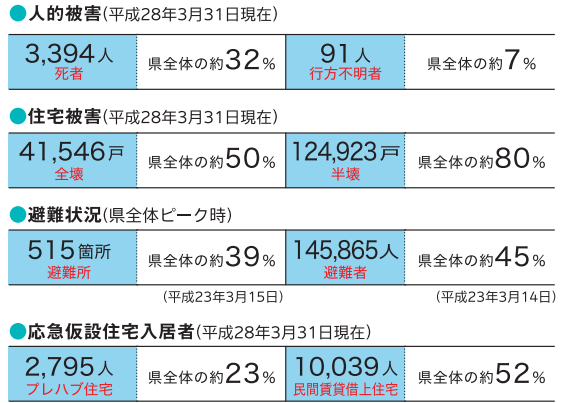
震災を教訓として生かす取り組みも行われました。仙台市では、国際的な防災戦略について議論する国連防災世界会議が平成27年3月に開催され、東日本大震災の経験が世界へ発信されました。そのほか、仙台市立荒浜小学校や山元町の中浜小学校は、震災遺構としての保存が決定しました。



仙台沿岸エリアの人口・世帯数の推移



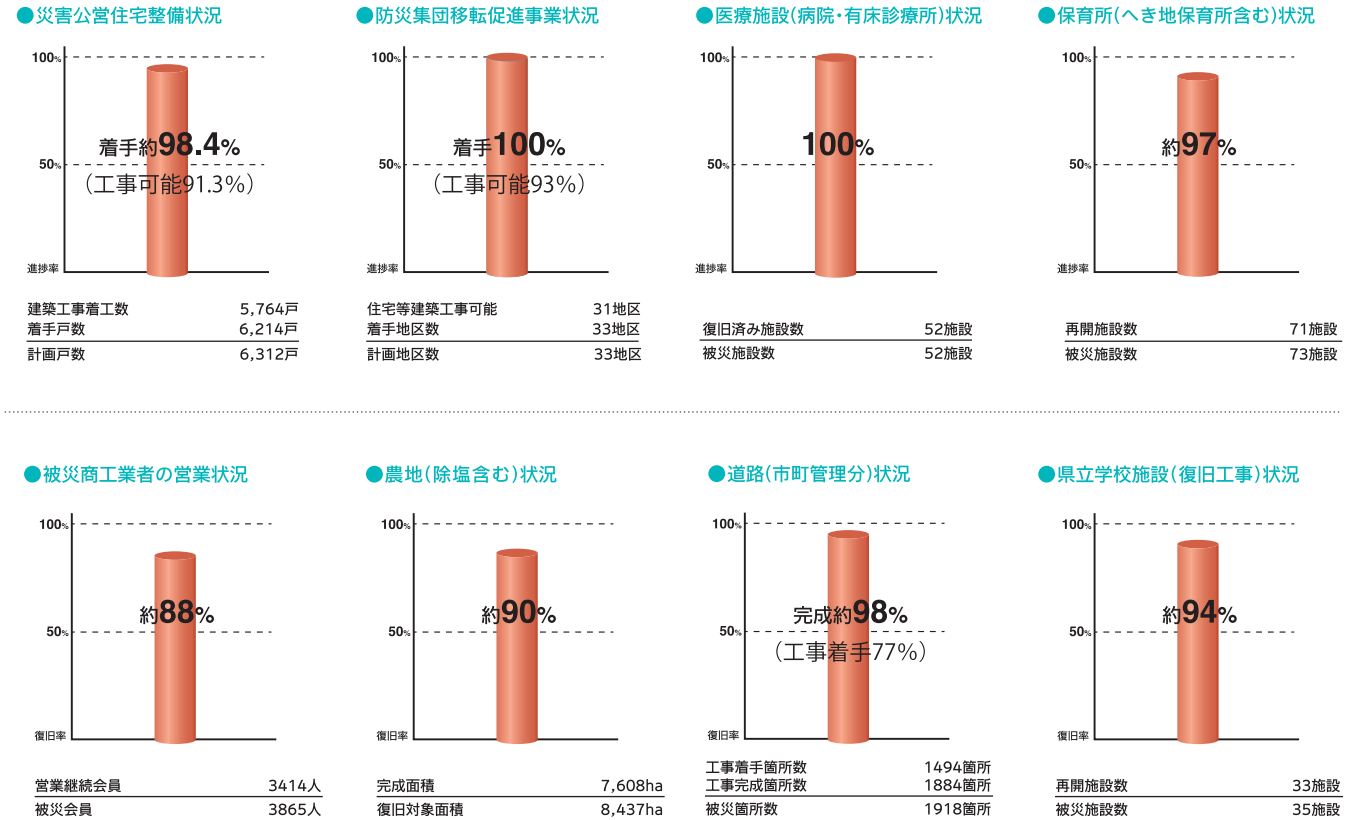
被災の状況



復旧・復興状況(定点観測)



復興の進捗状況(平成28年3月現在)



内陸部では平成26・27年度に、災害公営住宅の整備が進み、平成28年度中に全ての災害公営住宅の整備が完了する予定です。また、震災で大きな被害を受けた角田市の市民センターの建て替え(立て替え後は「角田市市民センター(かくた田園ホール)」に改称)や、登米市の東運動公園の整備、大郷町の吉田川農業用水路の整備等が行われました。

インフラ関連では、県の北部地域を東西に結ぶ、みやぎ県北高速幹線道路の整備が進められています。この道路は、被災地への復興支援や災害時の救助・救援活動を担う復興支援道路となっています。

教育・文化関連では、被災した大崎市の史跡・名勝の旧有備館および庭園が、平成27年度までに復旧を終え、平成28年4月に公開再

開予定です。また、地震の揺れにより損壊する蔵も多かった村田町の蔵の町並みは、被災を乗り越え重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。

そのほか、東京電力福島第一原子力発電所事故により放出された放射性物質を調査するため、各所で放射線量のモニタリングが続けられています。



写真:災害公営住宅(栗原市)



写真:重要伝統的建造物群保存地区「蔵の町並み」(村田町)



写真:新・志田橋(大崎市)

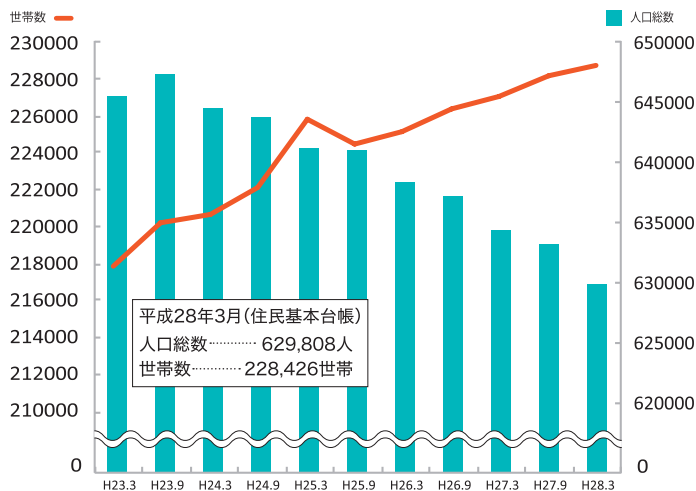
復旧・復興状況(定点観測)



写真:大崎市 旧有備館および庭園



内陸エリアの人口・世帯数の推移



出典:「日本人住民基本台帳人口及び世帯数(平成28年3月末現在)」

被災の状況

● 人的被害(平成28年3月31日現在)			
32人 死者	県全体の約1%	6人 行方不明者	県全体の約1%
● 住宅被害(平成28年3月31日現在)			
1,346戸 全壊	県全体の約2%	8,502戸 半壊	県全体の約5%
● 避難状況(県全体ピーク時)			
377箇所 避難所	県全体の約28%	24,205人 避難者	県全体の約8%
(平成23年3月15日)			
(平成23年3月14日)			
● 応急仮設住宅入居者(平成28年3月31日現在)			
0人 プレハブ住宅	県全体の約0%	639人 民間賃貸借上住宅	県全体の約8%